

Viva Brasil★

平成23年度 ブラジル通信
 12月3日(土)~12月9日(金)
 No. 14
 発行者: 宮本 朋子

パラナ州教育局長表敬訪問

12月からは、クリチバ市での活動となります。そこで、パラナ州教育副局長（局長は出張のため）を表敬訪問しました。日本の教育制度について関心が高く、豊橋市のブラジル人児童生徒に対するサポート体制や学校での子どもたちの様子など、多くの質問を受けました。クリチバはパラナ州都でもあるので、州立の学校を中心に訪問したり、日本から帰国した児童生徒と面談をしたりして、情報交換をしたいことを伝えました。しかし、残念ながらブラジルの学校は、12月中旬から1月まで夏休みになります。そのため、ほとんどの授業は11月で終わり、12月は補習しか行われなそうです。限られた時間の中での活動となりますが、有意義なものになるよう協力してくださると約束していただきました。



左から田丸秘書、西森議員、教育副局長と秘書、教育政策プログラム課長

パラナ州立図書館見学

1954年に建てられた、パラナ州立図書館を見学してきました。この図書館には、209,624種類の本があり、合計573,394冊の蔵書があります。項目ごとに丁寧に整理されており、じっくり本に親しむには、とてもよい施設でした。

また、学校や子どもたちを対象とした図書館見学ツアーも行っており、本の修繕方法や資料の保管方法を紹介することで、本の大切さを伝える活動をしています。その他にも、市民の方にもっと本に関心をもってもらうと、本の著者による講話や作品展、児童書コーナーでは、工作やチェス体験、人形劇、作文コンクールなど、様々なイベントが企画されていました。



セクションごとに部屋が分かれていました



児童用の本の修繕方法の説明書



児童書コーナー



本の修繕

見開きページを縫い合わせます



穴をあけます



ゴミ問題についての人形劇



1冊の本にならせます

ブラジルでは、本の値段がとても高いため、修繕された本がたくさん置いてありました。

パラナ州立学校訪問

パラナ州には、2136校の州立学校があります。その中で、パラナ州立学校は、州政府が別枠で予算をとっている伝統校です。そのため、入学試験に合格した生徒だけが無料で通うことができます。

現在、この学校には、高校1年生～3年生までの約5000人の生徒と約300人の先生がいます。学校の敷地がとても広く、他の学校とは比べものにならないくらい施設が充実しています。校内には、教室のほか、講義室、各教科の実験室と先生の研究室、劇場、式典を行うサロン、体育館、プール、競技場、プラネタリウムなどがあります。プラネタリウムは学校内の生徒だけでなく、外部の学校も利用できる施設で、年間約200万人の人が来館しているそうです。63席の小さなプラネタリウムですが、星空を見ながら学習できる、羨ましい施設でした。この他に、天文台も郊外にもっているそうです。課外活動（バンドやコーラス、演劇、ダンス、美術、音楽、スポーツなど）も盛んで、生徒たちは積極的に参加していました。



パラナ州立学校

真ん中の窓はクリスタルでできています



プールのある学校を初めてみました

大プールや小プール、飛び込み台までありました



競技場



陶器を焼く窯

学校で作品の仕上げまで出来ます



プラネタリウム

ドイツ製で、1978年から作動しています



ブラジルでは大学進学率がまだまだ低く、高校卒業後の生活を保障するため、手に職をつけることを目的とした、専門コースが併設されている学校があります。通常の高校は3年間ですが、専門コースは4年間となり、パラナ州立学校では、コミュニケーション、歯科衛生、建築基礎の3つのコースがあります。その他に、高校を卒業した人を対象とした市民講座のようなコース（情報処理、経営学、秘書、建築基礎、視聴覚、歯科衛生、演劇）もあり、それぞれ1～2年とコースによって期間が異なります。

また、パラナ州内の1400校に併設されている、CELEMもありました。CELEMとは、州政府が行っている外国語（スペイン語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポーランド語、日本語、中国語）教室で、1クラス定員30人のうち、70%が州内の生徒対象、30%が一般市民対象（12歳以上）となっています。1時間40分の授業が週に2回あり、日本語、中国語、ポーランド語は、3年コース（2年間基礎、残り1年が上達）で、それ以外の外国語は、2年コース（初級）です。（初級コースを修了すると、さらに中級コースが1年あります。）クリチバ市では、日本語教室があるのは2校だけで、日系人のナイル先生が指導していました。



課外活動でギターの練習をしています



ナイル先生

3年コースを修了した生徒に囲まれて！

様々な年齢の生徒がいるため、学習の進み具合が異なり、途中でやめてしまう生徒が多いといえます。30人で始めたクラスも、今年度終了時には、1年生15人、2年生1人、3年生11人まで減ってしまいました。残念ながら来年度の3年生コースは、1人のため開かれませんが、外国語を無料で学習できる画期的なプロジェクトなので、修了証を手にする生徒がもっと増えてほしいと思いました。

CENSE (少年更生センター) 訪問

広さ2畳の個室

パラナ州が管轄している、罪を犯した未成年者を収容する少年更生センターを訪問しました。ここでは、強盗や薬物売買、殺人などで逮捕された12歳～18歳の少年少女が収容されています。

部屋の黒板には、45日のカウントダウンが書かれています



《逮捕から判決までの流れ》



現在このセンターでは、少年57人と少女8人（8部屋しかないため）が収容されています。45日間の収容が決定した少年に対して、最初に学力レベルを検査し、4つのセクターに分けます。さらに、小グループ（最大8人）に分けて、授業や活動（美術、コンピュータ、体育、映画鑑賞など）を行います。センター内には、図書室だけでなく、ラジオ局（内部放送）もあり、収容されている少年少女によって放送されています。自分たちで放送内容を考え、みんなを楽しませることで、自分に自信をもたせています。また、臨床心理士と週に1回（最高で3回まで）個人面談をすることで、自分の犯罪を見直し、二度と同じことを繰り返したくないという強い意志を育てています。しかし、現実には難しく、今年度870人（初犯は200人くらい）の少年たちがこのセンターに収容され、そのうちの30%が再犯だといいます。ブラジルでは法律で中絶が禁止されているため、若くして出産する子、父親を知らない子どもがたくさんいます。少年たちが罪を犯す背景には、家庭が崩壊している場合が多く、そのためセンターでは、家族への指導も行っています。訪問中も手錠をかけられた少年を何人も見ました。少年犯罪撲滅に向けて、法律の見直しや社会全体の意識改革が課題となっています。



小さい教室がいくつもありません



本格的なラジオ局



子どもたちの作品



鉄格子の部屋



ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

クリチバに移動してまず最初に目に入ったのが、チューブ型の建物です。町の至るところでみられ、短いものから長いもの、2つ並んでいるものなど、いろいろあります。市民が利用しているものですが、これは一体何でしょう？

- ①バス停
- ②タクシー乗り場
- ③動く歩道



人が出たり入ったりしています

答え：①（国土の広いブラジルでは、車での移動が欠かせません。そこで、交通渋滞をなくすために考案されたのが幹線バス。専用レーンを走行するため、速くて、時間通りに運行されています。3両連結で1度に270人の乗客を輸送でき、1回R\$ 2.5と安いです。そのうえ、日曜日は1回R\$ 1で乗れるため、市内観光の足としても利用されています。両端が出入り口になっており、係員に運賃を支払ってから入ります。また、車いす利用者のためのリフトも設置されているという優れたものです。）



路上のフラットホーム